

D-9 学生の寮生活と体位に関する調査研究

昭和女子大 加藤 澄江
○伊藤きさ子
掛塚 芳子
三石 礼子
外島 幸子
為房 孝江

1. 本学新生生の地方出身者の大部分は寮生である。彼女等は全国各地より集まり異なった環境において、集団生活をいとなみながら学業に励んでいる。こうして環境の異なる社会でどのように順応し、健全な身心の育成がなされていくのであろうか。本学寮生を対象にして環境の変化による身心の状況、食に関する問題、生活内容等検討しているが、本報では寮生活者の身体状況特に体位に関する問題（主として身長・体重）と生活内容について検討した。

2. 本学40年度入寮生 219 名

（特に体位については4年次までの学部学生を加えてある）

3. 環境への順応性は個人差があり食欲、嗜好、睡眠、生理、便通等にもあらわれてきているが、更に体重の増減をも左右している。一般に入試のための不規則、不安定な時代に比し、余裕あり規則正しい生活のリズムは身体を徐々に順応させ食欲も正常となり、やがて体重

の増加が明らかに現われてくる。入寮後すでに3カ月でも非常に増加している。しかし、逆に体重減少者も少なくない。増加の理由は規則的生活・活動量の問題・規則的食事・偏食の矯正などあげられ、また、あかると積極的な者ほどその傾向にある。寮生であった者が下宿した場合体重の増減は、はっきりとし一般に減少するものが多く見られるようになる。このことは注目すべきである。自宅通学生は比較的な面で徐々に増加するようである。